

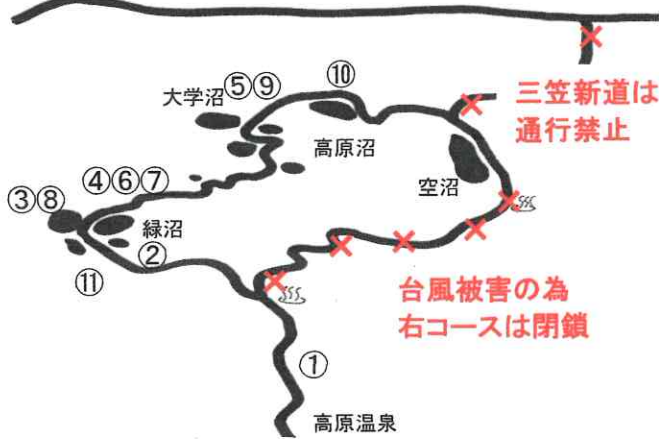
2018 高原沼情報

NO. 1
第8号 (10月4日)
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャーを受けてから入山してください。**

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



① 森の中は紅葉した葉が落ち、地面が紅葉しているようです。間もなく、山は冬を迎えます。(10月3日)



② コース最初の小さな沼、土俵沼です。遠景に紅葉がまばらに残っています。沼に生えるミツガシワも頭を垂れてきました。(10月3日)



③ 今年も色鮮やかになった滝見沼です。紅葉も終盤を迎えています。風が強い日が続き、葉もどんどん散っています。(10月3日)



④ 緑沼は紅葉が終わりました。広葉樹の葉が散り、晩秋の風景になっています。現在、コース状況に問題がなければ空沼往復になっています。(10月3日)



⑤ 大学沼は第三弾の紅葉が残っています。雪解けの遅かった斜面側のウラジロナナカマドと草紅葉が望めます。(10月3日)



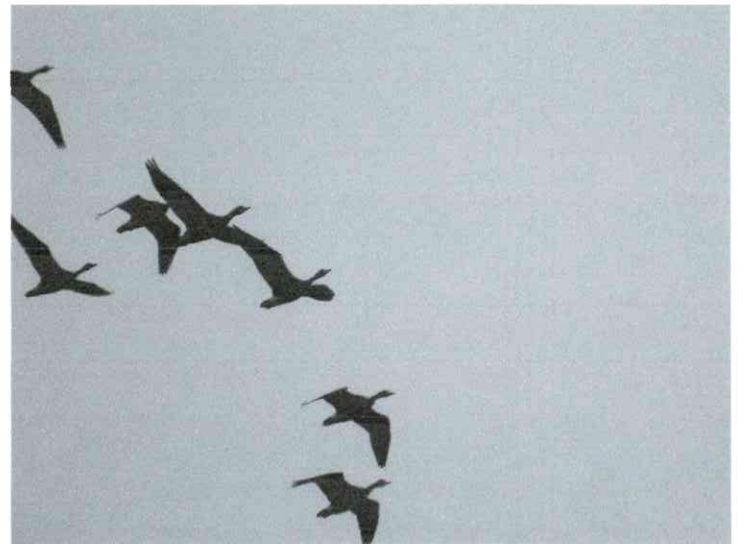
⑥強風の中、緑沼の入り江にカモが避難していました。普段なら人がいるとすぐに飛び立つカモですが、この強風にはそれどころではないようです。(10月3日)



⑦陽の当たる緑沼の浅瀬に多くのエゾサンショウウオが日向ぼっこをしていました。このサンショウウオは落ち葉にパクリとかじりつきました。(10月3日)



⑧木々の葉が落ち、森の中でも鳥が見やすくなりました。ヒガラ、シマエナガの群れに混じりゴジュウカラ、キクイタダキなども見られます。(10月3日)



⑨マガンの渡りが見られました。なぜかいつも霧の濃い時を選んで稜線を越えていくように見えます。10月2日には冬鳥のツグミが大雪山高原沼にやってきました。(9月27日)



⑩再登場の白ネズミです。目は鮮やかなラズベリー色をしています。せっせと餌を食べていました。また、来年会えるでしょうか?来年会えることを祈っています。(10月2日)



⑪沼巡りコースは10月9日が最終日になります。その為、コース内のロープの撤去を始めています。ロープのない歩道はやはり開放的で気持ちのいいものです。将来、ロープの要らない山になることを切に感じます。(10月3日)

2018 高原沼情報

NO. 1
第7号 (9月19日)
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャーを受けてから入山してください。**

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①紅葉は見頃を迎えた沼巡りコースです。滝見沼は綺麗に色付き始めています。ミネカエデの黄葉も始まり、赤や橙色に加わり森の中も明るくなりました。(9月19日)



②穴場のようなバショウ沼です。水面にはチシマミクリの葉と落葉が彩りを添え、沼の縁を紅葉が飾ります。歩道状態は水溜まり、ぬかるみがあり、滑りやすくなっています。(9月17日)



③緑沼はほぼ紅葉のピークになりました。これから人で混み合う緑沼です。写真撮影、休憩は譲り合ってください。また、ヤンベタツ川、ショウコノ沢、エゾ沼等、すれ違い、歩行には注意してください。(9月17日)



④いつもまちまちに紅葉する大学沼です。対岸のウラジロナナカマドは葉の落ちたものやこれから色付くものもあります。のんびり休憩するには人気があります。(9月17日)



⑤21日から高原温泉までのマイカー規制が始まりますが沼巡りコースは何事もなければ空沼まで開ける予定です。コース決定は当日の朝の巡視の結果、判断します。(9月19日)



⑥真っ白で可愛らしいネズミが現れました。アルビノの個体です。もうすぐ雪でも降るのでしょうか。その前兆のようにフツと現れたネズミでした。(9月17日)



⑦口いっぱい食べ物を入れているシマリスです。冬に向けて食糧を蓄えているのでしょうか。この愛嬌ある顔で走って行きました。(9月7日)



⑧寒が入り、雷と共にあられが降り、一段と寒さが厳しくなりました。息が白いです。これから紅葉が一気に進んでしまわないか心配です。山を歩くときは天候が変わりやすいので装備は万全に!(9月19日)



⑨高原沼から見える緑岳の紅葉はすでに終わりかけという状態です。来年は2019年、緑岳の標高年です。9月19日には白雲岳は真っ白になっていました。防寒対策はしっかりとしてください。(9月17日)



⑩(9月6日)⑪(9月17日)大学沼に大きな雄のヒグマがやってきて、泳ぎました。現時点で、未だに1頭のヒグマが三笠新道に住み着いています。これはまれなことで、木の実の不作が原因です。ヒグマは冬に向けて必死に活動しています。マイカー規制が始まりますがヒグマの動向によってはコース規制をします。人は道があれば歩きたいと思うでしょうが、人によりその命を脅かされる野生動物のために、そっとしてあげてもよいのではないのでしょうか。



2018 高原沼情報

NO. 1
第6号 (9月5日)
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャーを受けてから入山してください。**

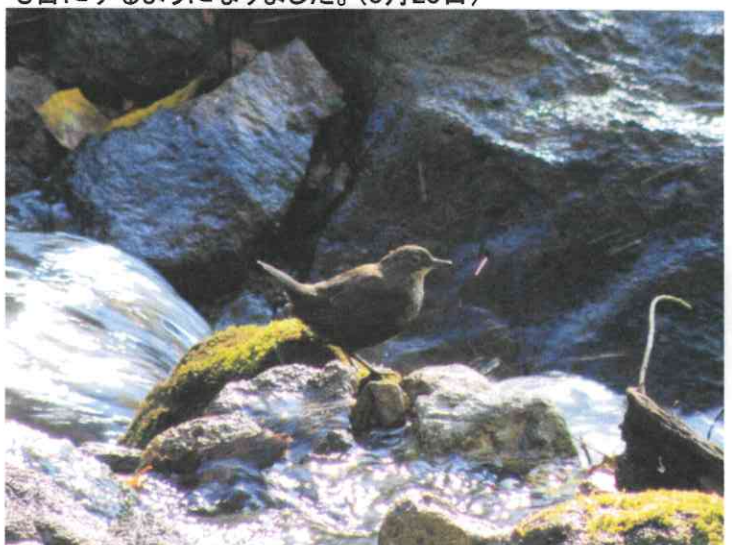
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①高原沼にクマゲラが来ました。子育てを終えたのでしょうか、高原温泉には晩夏にやってきます。クマゲラの声を聞くともう秋なのだと感じます。夏には目立たなかった、アカゲラも目にするようになりました。(8月28日)



②案内人のように道を先導して歩くエゾライチョウです。また、若鳥たちは兄弟達と過ごしているようです。歩いていると突然ぱたぱたと飛び立ち、続いて兄弟達も、驚かされず。(9月2日)



③溪流にはカワガラスがビッビッと鳴いて、人から逃げる姿をよく見かけます。静かにしていると沼や沢で泳ぎ潜水して、エサをとる姿も見られます。川の鳥です。(9月2日)



④大学沼にミノサザイが水を飲みに来ました。春、けたたましくも美しい声でさえずっていました。今は地鳴きしか聞こえません。カワガラスに似ていますが、ずっと小型の鳥です。(8月29日)



⑤パショウ沼にルリビタキがいました。歩いていると、小鳥たちをよく見かけるのですが、すぐに逃げてしまいます。今やさえずらない鳥たちを見つけるのも山歩きの楽しみの一つです。(9月4日)



⑥コースで目立つ花と言えばエゾオヤマリンドウぐらいになり、あちらこちらで咲いています。いつもなら盛んにマルハナバチの吸い蜜行動も見られるのですが、今年は天候不順の為か、あまり見られません。(9月3日)



⑦上陸したてのまだ尻尾の残っているエゾアカガエルです。孵化してから約70日で変態し上陸すると言われています。春、卵が多い鴨沼の木道の上は、子ガエルたちであふれています。(8月30日)



⑧大学沼対岸の紅葉は3割ほどの色づきです。稜線に近いウラジロナナカマドは一見オレンジ色に見えても枯れているものが多いです。エゾ沼から上部は同様な色づきです。(9月3日)



⑨三笠新道付近も4割ほどの色づきです。雪壁沢には赤色が出てきています。ダケカンバは黄葉せず葉の散るものが多く、白骨のような幹が目立ってきています。(9月3日)



⑩緑沼周辺も秋の気配が感じられ、これからの紅葉に期待します。緑沼にはチシマミクリも勢力を伸ばしつつあります。行く行くは、沼一面、ミヤママイやチシマミクリに覆われ、緑の沼になるかもしれません。(9月4日)



⑪まだ三笠新道ではヒグマが見られています。ここを去って行くクマもいて、森の中での痕跡が多く見られます。9月2日にはマタタビの混じった糞も見つかかり、戻ってきたクマもいるようです。森の中は音を出して歩いてください。(9月4日)

2018 高原沼情報

NO. 1
第5号 (8月23日)
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャーを受けてから入山してください。**
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①16日夜から17日にかけて白雲では雪が降りました。17日には雪化粧の緑岳も見えました。18日は久しぶりの晴天、緑岳の雪も消えていました。速すぎる降雪に緑岳の紅葉が始まった感もあります。(8月18日)



②ヒグマも食べない猛毒のダイセツトリカブトが満開です。湯の沼を過ぎた沢沿いの道です。まさに鈴なりというのでしょうか、見事な小さな群落を作っています。(8月18日)



③再び、雨続きがありました。ウラジロナナカマドの葉は完全防水で自分が着ているカッパとは大違いです。雨の日は傘を差しながらも、こんなカッパがあればいいと思う次第です。(8月12日)



④ヨツバヒヨドリです。これから花を咲かせることになりましたが、白色やピンク色の見事に綺麗なものです。背丈の高い植物で見つけ易いです。一説には、ヒヨドリが鳴く頃に花を咲かせることからこの名前が付いたようです。(8月13日)



⑤クロウスゴが果実を突られせています。食べたらいおいしいということですが、我々が食べておいしいものはヒグマも好物として、これからの季節に彼らの主食の一つになる果実です。見つけても食べたりしないでください。(8月18日)



⑥何年ぶりでしょう、沼コースでアカエリヒレアシギを見かけたのは。もう冬羽になっているのでしょうか。雨の中、緑沼で悠々と過ごしていました。他の鳥と比べると、人間には関心がなさそうです。(8月17日)



⑦南風にあおられ、対岸の雪が大学沼の広場に流れ着きました。久々に近くで見る雪でした。高根斜面にはいつもより、多く雪が残っているように感じます。(8月22日)



⑧高原ピークのウラジロナナカマドが先日の寒気に黄色くなりました。紅葉と言うよりは葉が枯れ始めていました。コースでも一部、こんな現象が見られますが、9月には綺麗な紅葉を期待したいものです。(8月22日)



⑨三笠新道の風景です。手前にオスのクマと、奥に親子3頭が見えます。こんな風景が見られるのも人間が関わらないからです。至極、野生のヒグマの姿をのぞき見る事が出来ました。(8月18日)



⑩ロクイチ、成長しています。7月26日(左写真)に初めて見た頃より、ふさふさだった毛が短くなり、体の色も黒から茶色が目立ってきました。体も少し大きくなりました。先号で伝えたようにちょっとお騒がせなクマです。8月13日に再び大学沼に下りてきましたが、大学沼にいる人に警戒して一定の距離を置き、走って逃げるような動作をしたので、問題のあるクマではないと思われます。来年、どんな姿で戻ってくるのでしょうか。(8月22日右写真)



2018 高原沼情報

NO. 1
第4号 (8月10日)
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャー**を受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①ヒグマの季節に入りました。ヒグマが好んで食べるというハクサンボウフウが咲く、大学沼です。高根斜面では連日、数組のヒグマが見られます。次に常連となっている4組のヒグマを紹介します。(8月9日)



②「からし」。7月7日から観察出来ている金毛のクマで、主に三笠新道を中心に活動しています。クマが草を食べては、雪渓で涼んで寝るのを繰り返す姿が見られます。「暑いです!毛皮を着ているから。」(7月30日)



③「ロクイチ」。7月26日から大学沼上方で活動している。2日連続で大学沼に下りてきて、人に関心が薄い可能性が見られたので2日間緑沼でコースを規制しました。クマの性質、動向によりコースを規制することもあります。(8月4日)



④「モドリッチ」。8月2日から大学沼上方から三笠新道入口で活動している。8月7日にはロクイチと3mの距離で接近遭遇し、ロクイチが逃げていきました。モドリッチの方がロクイチより格が上だと分かります。双方、垂成獣です。(8月8日)



⑤10歳の「コショウ」が2年ぶりに子供を連れて帰ってきました。親の「わかか」同様、神出鬼没で高根斜面のどこに現れるか分かりません。コショウを初めて見てから10年も経つのが感慨深く、今後もコショウを見ていきます。(7月31日)



⑥エゾウサギギクが咲いています。皆さんの足に引っかかってしまい花びらが落ちてしまっていますが、その夏らしい色で風情を感じられると思います。これから高原沼の花畑にも咲きます。(7月29日)



⑦クルマユリの花です。ヤンベタツ川を越え、高原沼までに所々、目にします。数は少ないけれど大振りの花なので見つけれられると思います。花びらの反り返り具合が格好の良い花です。(7月29日)



⑧ホシガラスのギャーギャーと言う主張の強いしゃがれた声が聞こえます。ハイマツ林や針葉樹を好む鳥です。先日は大学沼で同様にハイマツ林を好むギンザンマシコの声聞いたのでハイマツの実成はどうなのでしょう。(7月31日)



⑨サメビタキの幼鳥です。まだ飛ぶのになれていないのか、近づいてもうまく逃げられずに、写真に収めることが出来ました。隣の枝に飛び移るように逃げていきました。(8月4日)



⑩昨年、全く見られなくなった高原ピーク近くのナキウサギです。また、ほんのすぐそばで姿を見せてくれるのも間近と期待します。大学沼でも鳴き声は聞こえます。(8月7日)



⑪ヌマハリイが顔を出した緑沼です。白雲岳と緑岳が望めます。緑岳、別名松浦岳、あのアイヌモシリを旅した北海道の名付け親タキシローの名の山です。松浦岳は沼コース、特に高原沼からの眺めが抜群です。(8月7日)

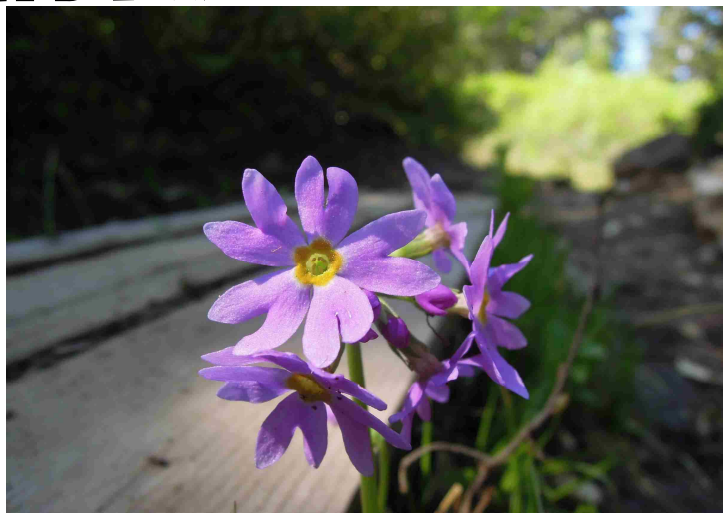
2018 高原沼情報

NO. 1
第3号 (7月25日)
発行：ヒグマ情報センター

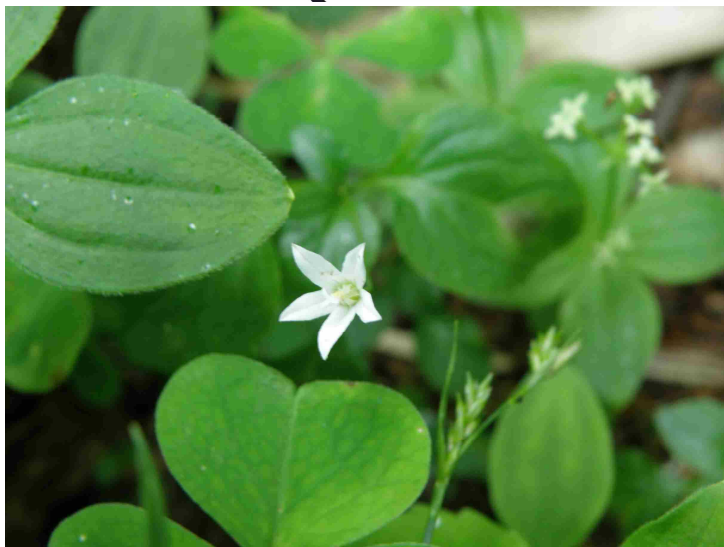
沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャーを受けて**から入山してください。

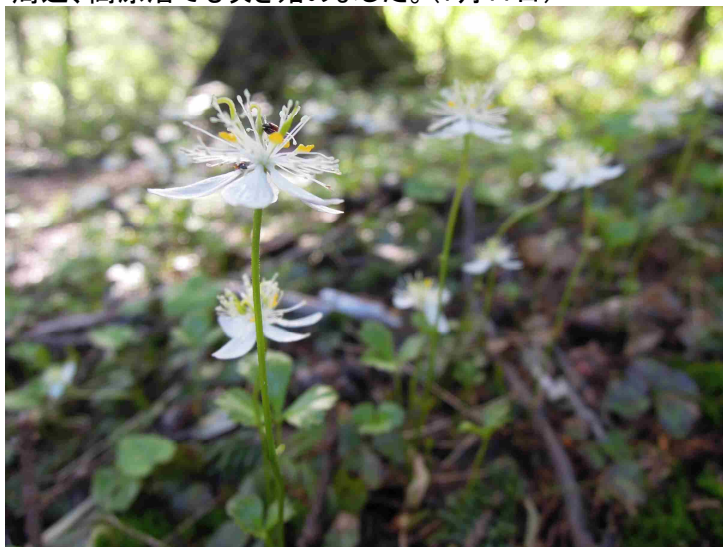
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



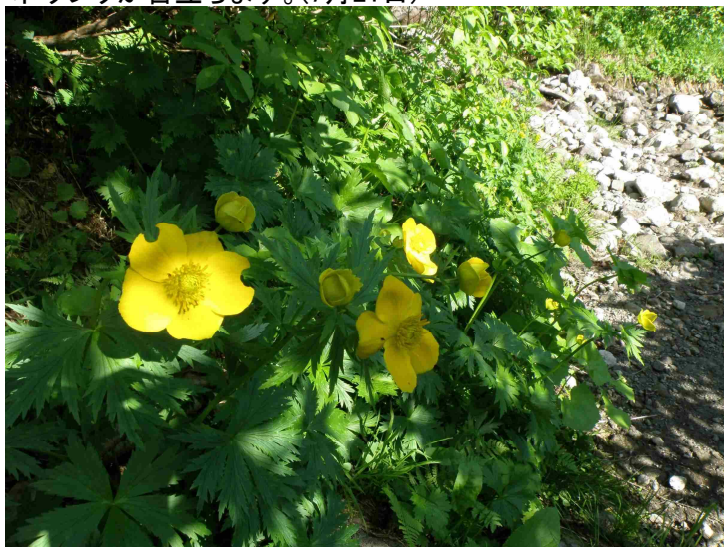
①木道のすぐ脇にエゾゴザクラが、日差しをいっぱい浴びて咲いています。下を向いて歩きがちの人に見つけてもらいたくて、ここに咲いているようで愛着が湧きました。緑沼周辺、高原沼でも咲き始めました。(7月11日)



②イワギキョウです。小さな、小さな花をつけています。エゾノヨツバムツラやズダヤクシュなど、目だ立たない花が森の中には咲いています。白い花ではカラマツソウやハクサンボウフウが目立ちます。(7月21日)



③ミツバオウレンが歩道脇に花を咲かせています。少しだけ足元を気にして歩くだけで見つけることができます。一つ一つでも綺麗に咲いてますが、まとまって咲いていると見事な景色となります。(7月11日)



④チシマノキンバイソウが咲き始めました。まだ緑がかかる蕾も綺麗です。ミヤマキンポウゲやオオバミゾホオズキの黄色い花がコースを彩り始めました。また、ピンクのヨツバシオガマも咲き始めました。(7月25日)



⑤タニマスミレが見頃を迎えました。鴨沼手前から大学沼まできれいに咲いています。写真を撮るにはエゾ沼の階段、大学沼がベストでしょう。全国のスマレファンが訪れる、このコースの象徴的な花です。(7月21日)



⑥エゾオオマルハナバチです。一見、セイヨウオオマルハナバチに似ていますが、在来のはちです。朝には木道などにとどまり、体が暖まるのを待っている姿が見られます。(7月17日)



⑦土俵沼にルリイトンボが飛んでいました。小さいながら綺麗な青色が映えるトンボです。暑くなってきた夏に涼しげな青色を探してみるのはいかががでしょうか。特に目は瑠璃のようで、宝石箱にしまいたいたいぐらいです。(7月24日)



⑧ウソの巣立ったばかりの幼鳥でしょうか。いっばしにさえずっていました。ピークでヒグマ待機中にはマヒワの群れや、ヒガラ、ルリビタキ、ホシガラスなどが観察できます。(7月25日)



⑨高原沼の看板がようやく出てきました。大学沼も湖水開きし、ベンチが出てきて、のんびりと夏を満喫しながら大雪の懐の景色とヒグマを観察できるようになりました。(7月25日)



⑩上川中学校の野外授業が沼巡りコースでありました。残念ながら大学沼でのヒグマ観察はできなかったものの、出発前に駐車場からヒグマを見ることができました。素晴らしい上川町を誇りに成長してほしいものです。(7月24日)



⑪クマが大学沼の畔に下りてきました。この後、式部沼の方に向かっていました。ヒグマの状況は最近では1組が観察できる程度ですが、これからが2組、3組と見られる、ヒグマの夏本番と期待したいです。(7月25日)

2018 高原沼情報

NO. 1
第2号 (7月10日)
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャーを受けて**から入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



① マミジロが高原温泉にやってきました。長雨の最中にも朝になるとマミジロのさえずりがこだまします。ここ1週間ほどいます。高原温泉ではとても珍しい鳥です。(7月9日)



② 森でウコンウツギが綺麗に花をつけています。この日は大雨で雨水が重そうでしたが、雫がとても似合っていて雨の日でも楽しませてもらいました。これから高根斜面のウコンウツギの大群落が楽しめます。(7月5日)



③ ミズバショウもまだ見頃の所もあります。土表沼周辺にはエゾコザクラも咲き始めました。現在緑沼ぐらいまではヤブ蚊に悩まされます。(7月10日)



④ 「水の恐怖」梅雨前線が北海道に停滞し、7月2日からの大雨でヤンベタツ川が増水し、橋に水がかぶっています。7月6日に補修をし、コースを再開しました。ただ、少しの増水でも橋に水がかぶる状態です。(7月4日)



⑤ エゾ沼の増水が始まりました。現在、すねくらいは歩道が水没しています。雨の降り方によっては水かさが増します。鴨沼とエゾ沼の間の道も雪が薄くなっているのので踏み抜きには気をつけてください。(7月6日)



⑥天気予報が外れた晴天の日、気温も上がり、心地良い一日でした。残雪が浮かぶ式部沼の奥には、ぽっかり浮かぶ雲の下に音更山が望めました。(7月8日)



⑦キビタキが大きなイモムシを啜っていました。巣では雛たちが首を長くして待っているのでしょう。時折、鳥とは思えないブーンという羽音も聞かれます。(6月23日)



⑧高根斜面の急な雪渓でカルガモの親子を見ました。なぜこんな所にいるのか?高根ヶ原から下りてきたのでしょうか。写真にはわかりにくいですが4羽の可愛いひなが写っています。(7月10日)

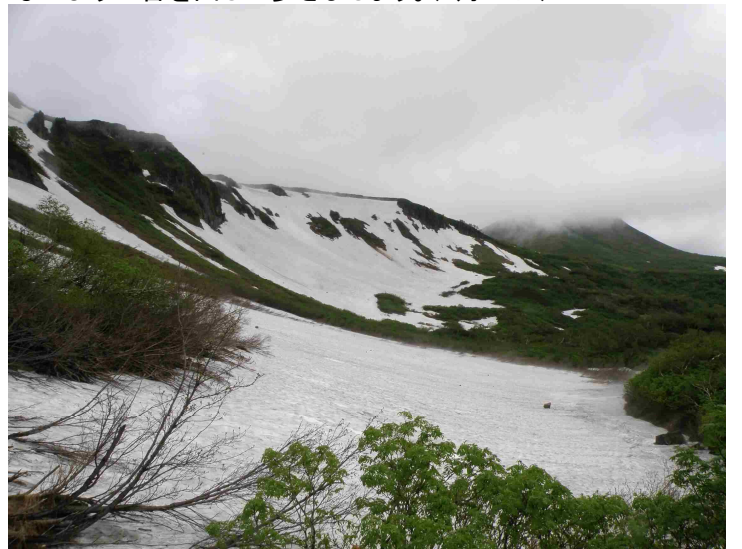


Bushnell 013°C 06-29-2018 17:41:47

⑨センター近くの水バショウ群落を歩くヒグマがセンサーカメラに撮影されました。毛並みの綺麗なやや大きいクマでした。森の中にはクマが食べる植物が多く、バツリ出会わないように音を出して歩きましょう。(6月29日)



⑩このクマが4日連続で観察されました。大学沼上方の斜面から三笠新道入口の斜面で黙々と草を食べていました。これからヒグマの季節が始まります。(7月7日)



⑪写真⑩のヒグマが高根斜面に居着いたことで、7月10日より三笠新道は通行止めになります。沼巡りコースも緑沼経由、高原沼の往復コースとなります。(7月10日)

2018 高原沼情報

NO. 1
第1号 (6月27日)
発行：ヒグマ情報センター

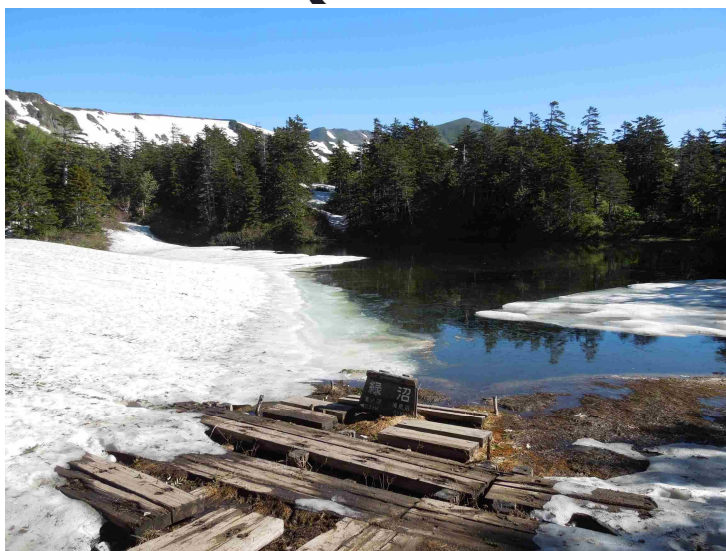
沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャーを受けて**から入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



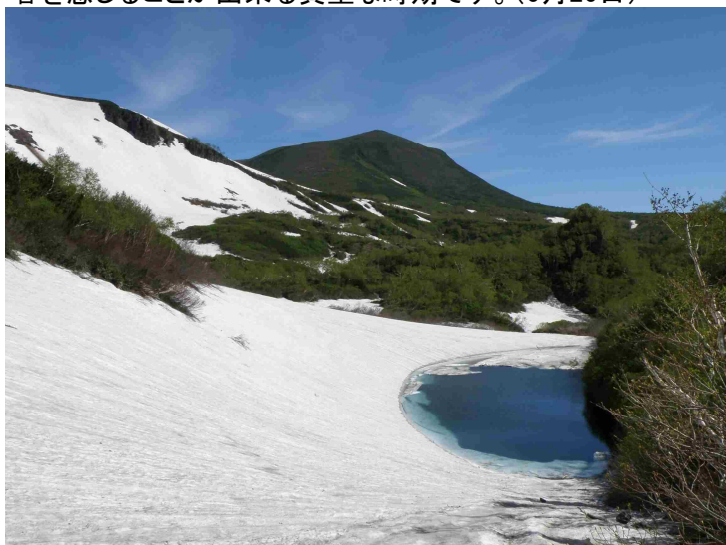
①空沼は、まるで南極にいるような感覚になれるほどの雪が湖水に崩れ落ち、水中に没した雪は空のごとく青く映えています。沼コースに行くなら是非ともコース最奥のこの空沼まで行ってみましょう！(6月26日)



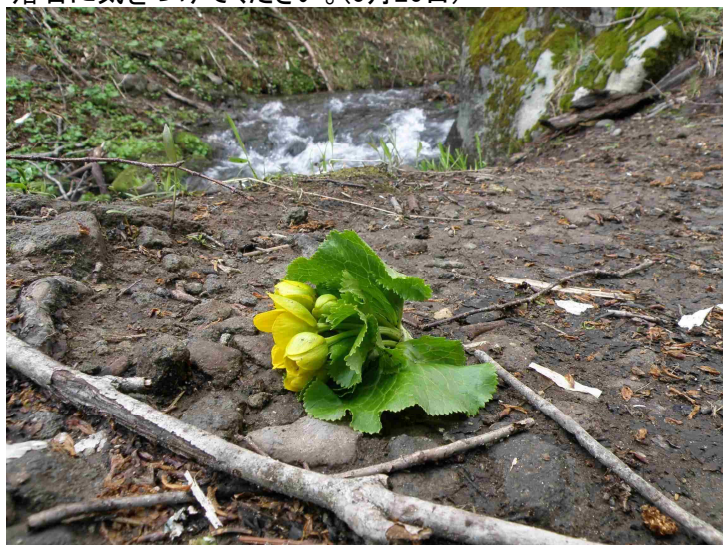
②山の融雪が着実に進んでいます。緑沼の木道も少しずつですが長い冬から顔を出してきています。沼巡りコースにはまだまだ残雪がある所が多いですが、ようやく大雪山の春を感じることが出来る貴重な時期です。(6月26日)



③大学沼はまだ雪の下です。大学沼対岸のブッシュから時折、ナキウサギの声が聞こえます。奥のコウモリ雪渓はいつもより多く雪が張り付いています。大学、高原沼の間は落石に気をつけてください。(6月26日)



④大学沼にて、「ここで帰るんですか？高原沼まで行ってきたらいいですよ。」「ありがとうございました。行ってよかったです。きれいでした。」(6月26日)



⑤エゾノリュウキンカがきれいに咲く沢沿いの歩道に花が落ちていました。シカが茎を食べた跡です。まだ花が開きかけのものです。たくさん食べてほしくないものです。(6月23日)



⑥沼コースはまだまだ雪が多く残っているので道迷いには注意してください。コースにはテープや笹でマーキングをしています。写真はヤンベタツ川ですが上川総合振興局により架橋され安全に渡れます。(6月20日)



⑦エゾ沼の雪は例年より少ない状態です。水の中をジャブジャブと歩くことになるのも早いかもしれません。雪上の歩行には注意してください。(6月23日)



⑧高原温泉の幻の湖?沼です。大学沼の対岸にある雪原に水がたまっていました。わずか1日しか見られませんでした。陽光にきらきらと輝いていました。ここは夏になるとヒグマの生活場所になります。(6月23日)



⑨土俵沼手前のショウコノ沢です。24日に沢を覆っていた雪が一気に落ちました。橋に掛かった倒木は非常に滑ります。慎重に通行してください。また、コース中は雪の踏み抜きに注意してください。(6月25日)



⑩三笠新道は現在通行可能です。この分岐から高根ヶ原までは雪上の歩行になります。道迷いや滑落には十分注意してください。昨年の通行止めは7月12日でした。三笠新道の通行止めはヒグマ次第です。(6月26日)



⑪日中に歩道脇でクマがミズバショウを食べた跡です。センターからヤンベタツ川の間で日中にクマが現れた痕跡は2件になります。これから融雪が進み、クマの食べ物が出てきます。近くで遭遇しないように注意してください。(6月23日)